図書館へ行こう

内子町図書情報館
〒791-3301
内子町内子３４２７番地
☎ 0893（44）4198
FAX 0893（44）4167
https://www.town.uchiko.ehime.jp/

開館時間：
午前９時30分～午後６時
休館日：
月曜日・月末整理日

●ファミ読マラソン終了

子どもも大人も挑戦する読書マラソン「ファミ読マラソン」を内子、五十崎、小田の３館で行いました。

２６０人（うち小学生１９９人、中学生22人、高校生５人、大人18人）が参加し、１３７人（うち小学生92人、中学生８人、高校生１人、大人18人）が完走しました。多くの皆さんの挑戦、ありがとうございました。

●「第46回内子町読書活動研究集会」の中止のお知らせ

11月19日に予定していた内子町読書活動研究集会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止します。

●10月企画展のご案内

《読書の秋》
▽「ツペラツペラ絵本の世界パート１」～しかけカードで楽しもう～

「おはなし会」
▽土曜日・午後２時～
10月３日　ゆりかご
10日　むしこまど（英語の日）
17日　むしこまど
24日　どんぐり会

「文学講座」
▽10月10日（土）　午前10時～
▽内容　「女性作家とおとうこたち」
▽講師　村山洋子（ようこ）さん

新着図書紹介

その他の新着情報はホームページをご覧ください。

♣一般図書

日本製
三浦春馬／著
祭りを支えるねぶた師の技や鎌倉彫の老舗・博古堂など、残し伝えたい「日本製」の文化や伝統、産業を三浦春馬と巡る

純喫茶パオーン
椰月美智子／著
創業約50年の「純喫茶パオーン」。その店主の孫である「ぼく」が、今までに出会った不思議な事件と温かな日々を描く

ラクしてエコする直裁ちかんたんＥＣＯバッグ
高橋ひとみ／編集
ＥＣＯバッグを気軽にハンドメイドしてみよう。きんちゃくトートやレジかごトートなど、真っすぐ切って縫うだけの、簡単な作り方を紹介

♥児童図書

怪奇漢方桃印２
廣嶋玲子／作
「恋がかなう薬はありますか？」日本全国どこにでも、不思議な漢方屋の桃さんが現れ、どんな悩みもズバッと解決

おばけになりたいなす
岩神愛／作
ナスが苦手なゆいちゃんに「むらさきおばけなんてたべないもん」と言われ、ショックを受けたナスは、本当にお化けになろうとするが……

どうしてしんがたコロナになるの？
ＷＩＬＬこども知育研究所／編著
人間の体の中に忍び込んで、悪さをするコロナ。うつらない、うつさないためには？　未知の感染症を理解し、予防策を身に付けられる絵本

UTIA　Uchiko Town International Association
内子町国際交流協会の情報誌「ゆうてぃあ」
事務局　内子分庁３階
☎ 0893（44）2114
fax0893（44）6137
http://utia.jp/
kokusai@town.uchiko.ehime.jp
VOL.234

青少年海外派遣事業研修レポートVOL.3

今回はドイツで研修する環境保全の内容をご紹介します。第６回派遣生の池田幸子（さちこ）さんに、海外派遣で学んだことが、その後の人生にどのような影響を与えたかなどについて聞きました。

エコがいっぱいの環境先進国で学ぼう

ドイツは世界有数の環境先進国です。ローテンブルク市でも至る所で環境に配慮した取り組みを目にすることができます。

研修ではゴミ処理場や下水処理場、農場に設置されている大規模な太陽光発電装置の見学などをします。下水処理場では、処理の過程で発生するメタンガスを利用して発電する方法などを学びます。各家庭での徹底したごみの分別やスーパーで必ずエコバックを使うこと、飲み物の空き容器の再利用を促進するデポジット制度など、生活に身近な取り組みも見ていきます。

1_ゴミ処理場の内部を見学する派遣生　2_自然豊かなタウバー渓谷を散策　3_空き瓶などは回収する装置に入れて、再利用する　4_お気に入りのエコバックで仲良く買い物

＼ 研修生の声 ／

第６回派遣生
池田　幸子（さちこ）さん

研修に参加して、新たな世界に一歩踏み出せばいろいろなことが見えるんだという、「知る面白さと大切さ」を知りました。「感謝を社会に恩返しする」という今の私の思いにも強くつながっています。

最初は国際交流に興味があって参加しましたが、派遣前に行われる研修の中で、内子町が「エコロジータウン内子」を掲げて、環境に配慮した町づくりをしていることを知りました。派遣中はホームステイ先や研修で、ドイツの環境に配慮した暮らしを体験することができました。私はそれらの経験を通じて、環境問題と国際問題に興味を持つようになります。学生時代には「世界水フォーラム」に参加しました。内閣府の主催する「世界青年の船」では、いろいろな国の仲間と世界を旅しながら「持続可能な地球社会」について議論しました。

思春期の私にとって「環境問題」や「国際問題」について語ることや、周りと違うことに興味を持つことは、勇気のいることでした。でも「人と違っても私のやってきたことを信じる」「いい経験をさせてもらった恩を返したい」ということを貫いてこれたのは、海外派遣を通して感謝している人や場がたくさんあったからだと思います。「私の人生は恩送りだ」と感謝の気持ちを力に変え続け、挑戦することを楽しんできました。

今は「既にある未来の可能性を実現する」という任務の元、必ず来る未来をみんなにとってよりよいものに、より面白いものにしていく仕事をしています。手掛ける企画は「知る面白さと大切さ」を基本に調査し、未来の社会につなげています。